

kKikuchi- Maki A Dohi T Inaba K Toyama- Sorimachi N	Regulation of neutrophil migration through an inhibitory NK receptor Ly49Q.	第35回日本免疫学会学術集会	横浜	2005 Dec 14
Kawashima R Kawamura Y Mizutani N Toyama- Sorimachi N Dohi T	IL-13 receptor $\alpha 2$ is required for the intestinal epithelial regeneration.	第35回日本免疫学会学術集会	横浜	2006 Dec 14
Kawamura Y Kawashima R Mizutani N Toyama- Sorimachi N Kannagi R Dohi T	Modification of P-selectin ligands by introduction of human N-acetylglucosaminyltransferase, an essential enzyme for the expression of the Sda blood group carbohydrate.	第35回日本免疫学会学術集会	横浜	2007 Dec 14
Hoshino A Kawamura Y N T-S T D	Aggregation of peritoneal macrophages via CCL1/CCR8 triggers inflammatory and postoperative adhesion.	第35回日本免疫学会学術集会	横浜	2008 Dec 14
Mizutani N Kawashima R Kawamura Y Imai T Toyama- Sorimachi N Dohi T	Fractalkine modulates the responses to liposaccharide in mouse macrophages.	第35回日本免疫学会学術集会	横浜	2009 Dec 14
Numata M Ido A Tahara Y Sasaki F Kanmura S Tsubouchi N Abe H Nakanishi C Yamamoto S Miyata Y Moriuchi A Kim I Uto H Tsubouchi H	Hepatocyte growth factor facilitates colonic mucosal repair in experimental rat models of colitis.	Digestive Disease Week 2005	Chicago	2005年5月15日
井戸章雄 森内昭博 金一徳 坪内博仁	組み換え型ヒトHGFの臨床応用－医師主導型治験としての取り組み	第41回日本肝臓学会総会	大阪	2005年6月17日
安倍弘生 森内昭博 宇都浩文 山本章二郎 沼田政嗣 中西千尋 上村修司 楠元寿典 宮田義史 林克裕 井戸章雄 坪内博仁	肝細胞増殖因子(HGF)の硫酸デキストラン実験腸炎ラットに対する作用機序の検討	第47回日本消化器病学会大会	神戸市	2005年10月6日

金 一徳 井戸章雄 森内昭博 沼田政嗣 坪内佳子 田中紘一 坪内博仁	ミニプタ肝切除モデルを用いたHGF 持続門脈内投与法の肝再生効果の検討	第9回日本肝臓学会大 会	神戸市	2005年10月6日
井戸章雄 森内昭博 坪内博仁	劇症肝炎に対する組み換え型ヒト肝細胞増殖因子による 第I・II相臨床試験への取り組み	第9回日本肝臓学会大 会	神戸市	2005年10月6日
沼田政嗣 中西千尋 宇都浩文 安倍弘生 上村修司 黒木穰二 森内昭博 児玉真由美 林 克裕 井戸章雄 坪内博仁	ラット大腸発癌モデルの腫瘍発生に及ぼすHGFの影響	第16回日本消化器癌発 生学会総会	鹿児島市	2005年10月14日
中原生哉 後藤 啓 矢花 崇 上野敦盛 有村佳昭 篠村恭久 今井浩三 斎藤嘉津彦 宮本 篤 園田智子 森 満	炎症性腸疾患における薬剤トランスポーター遺伝子のSNPs解析	第42回日本消化器免疫 学会総会	東京	2005年8月4日
中原生哉 後藤 啓 有村佳昭 遠藤高夫 篠村恭久 今井浩三 斎藤嘉津彦 宮本 篤 園田智子 森 満	炎症性腸疾患における薬剤トランスポーター遺伝子のSNPs解析	第47回日本消化器病学 会大会	神戸	2005年10月6日
土屋輝一郎 中村哲也 渡辺 守	転写因子Math-1活性化の分子機構と腸管上皮分化制御	第91回日本消化器病学 会	東京	2005年4月14日
岡本隆一 中村哲也 渡辺 守	活性型Notchの発言調節によるヒト腸管上皮再生の可能性	第91回日本消化器病学 会	東京	2005年4月14日
根本泰宏 金井隆典 蒔田 新 藤井 玲 河村貴広 戸塚輝治 渡辺 守	マウス腸管粘膜内CD4+T細胞は制御性T細胞として慢性大腸炎発症を抑制する	第91回日本消化器病学 会	東京	2005年4月14日
蒔田 新 金井隆典 戸塚輝治 河村貴広 根本泰宏 大島 茂 小金井一隆 福島恒男 渡辺 守	ヒト腸粘膜内CD4+CD25bright制御性T細胞の存在と機能	第91回日本消化器病学 会	東京	2005年4月14日

戸塚輝治 金井隆典 根本泰宏 蒔田 新 浦牛原幸治 飯山稜一 八木田秀雄 渡辺 守	慢性大腸炎モデルにおけるCD4+PD-1+制御性T細胞の役割	第91回日本消化器病学会	東京	2005年4月14日
渡辺 守	治療抵抗性の炎症性腸疾患に対する治療戦略	第91回日本消化器病学会	東京	2005年4月15日
金井隆典 河村貴広 渡辺 守	腸内細菌からTLR9+B220+B細胞をトリガーとした慢性腸炎発症機序	第91回日本消化器病学会	東京	2005年4月15日
金井隆典 蒔田 新 渡辺 守	制御性T細胞からみた炎症性腸疾患の病態と治療応用	第91回日本消化器病学会	東京	2005年4月15日
Oshima S Nakamura T Namiki S Kanai T Watanabe M	IRF-1 and IRF-2 Distinctively Up-Regulate Gene Expression and Production of IL-7 in Human Intestinal Epithelial Cells.	DDW 2005	Chicago, Illinois, USA	2005年5月15日
Namiki S Nakamura T Oshima S Yamazaki M Tsuchiya K Okamoto R Kanai T Watanabe M	Identification of Novel IRF-1-Regulated Genes and the Role of IRF-1 in Immuno Proteasome Subunit Expression in Intestinal Epithelial Cells.	DDW 2005	Chicago, Illinois, USA	2005年5月15日
Totsuka T Kanai T Makita S Fujii R Nemoto Y Watanabe M	Regulation of Murine Chronic Colitis by CD4+CD25- PD-1+ Regulatory T Cells.	DDW 2005	Chicago, Illinois, USA	2005年5月16日
Tsuchiya K Nakamura T Kanai T Watanabe M	The Bhlh Transcription Factor Math-1 is Posttranslationally Regulated by the Ubiquitin-Proteasome Pathway in the Intestine-Specific Mechanism.	DDW 2005	Chicago, Illinois, USA	2005年5月16日
Kawamura T Kanai T Kodama H Totsuka T Makita S Nemoto Y Watanabe M	Leukocytapheresis Therapy for Ulcerative Colitis; Extracorporeal Anti-TNF- $\alpha$ Therapy for Selective Elimination of TNF- $\alpha$ -Producing CD14+CD16+ Monocytes.	DDW 2005	Chicago, Illinois, USA	2005年5月18日
Kanai T Makita S Oshima S Totsuka T Fukushima T Watanabe M	Regulation of intestinal immune homeostasis by human lamina propria CD4+ CD25bright regulatory T cells.	12th International Congress of Mucosal Immunology	Boston, Massachusetts, USA	2005年6月25~30日
Makita S Kanai T Watanabe M	Control of intestinal homeostasis by human intestinal lamina propria CD4+CD25bright T cells.	12th International Congress of Mucosal Immunology	Boston, Massachusetts, USA	2005年6月25~31日
Nemoto Y Kanai T Makita S Totsuka T Fujii R Kawamura T Watanabe M	Murine lamina propria CD4+ T cells suppress the development of chronic colitis.	12th International Congress of Mucosal Immunology	Boston, Massachusetts, USA	2005年6月25~32日

Okada E Yamazaki M Tanabe M Takeuchi T Nanno M Nakamura T Kanai T Ishikawa H Hibi T Watanabe M	IL-7 exacerbates chronic colitis with expansion of memory IL-7Rhigh CD4+ mucosal T cells in mice.	12th International Congress of Mucosal Immunology	Boston, Massachusetts, USA	2005年6月25~33日
蒔田 新 金井隆典 戸塚輝治 根本泰宏 伊藤ゆみ 藤井 玲 渡辺 守	制御性T細胞を用いた炎症性腸疾患治療の可能性	第47回日本消化器病学会	神戸	2005年10月6日
根本泰宏 金井隆典 蒔田 新 藤井 玲 伊藤ゆみ 戸塚輝治 渡辺 守	マウス腸管粘膜内CD4+T細胞の免疫トランスへの関与	第47回日本消化器病学会	神戸	2005年10月6日
岡本隆一 渡辺 守	骨髄由来細胞による小腸粘膜防御機構の再生	第36回日本消化吸収学会・第47回日本消化器病学会合同	神戸	2005年10月8日
渡辺 守	ヒト腸管上皮細胞由来IL-7による粘膜免疫および上皮分化・再生の制御	第33回日本臨床免疫学会	京都	2005年10月28日
Yoshioka A Oshima S Tsuchiya K Namiki S Okamoto R Nakamura T Kanai T Watanabe M	Functional roles of intestinal epithelial cells through transcription factor IRF-1.	第35回日本免疫学会	横浜	2005年12月15日
Kanai T Makita S Nemoto Y Totsuka T Watanabe M	Regulation of intestinal inflammation by lamina propria CD4+ CD25+/bright T cells.	第6回 Colloquium for the Study of Gastrointestinal Defense System (日本消化器免疫学会サテライトシンポジウム)	大阪	2006年1月14日
Kanai T	Immune-Nonimmune Cell Interactions: the Other Cross Talk Between Innate and Adaptive Immunity.	International Symposium on Recent Advances in Inflammatory Bowel Disease Tokyo 2006 (炎症性腸疾患国際シンポジウム)	東京	2006年2月18日
M Iizuka K Sasaki S Konno K Shindo A Sato Y Horie S Watanabe	ECABET SODIUM PREVENTS THE DIMINISHMENT OF WOUND REPAIR IN INTESTINAL EPITHELIAL CELLS INDUCED BY HYDROGEN PEROXIDE.	米国DDW	シカゴ	2005年5月15~19日
H Itou M Iizuka T Shirasaka Y Horie S Konno K Shindo A Sato S Watanabe	Efficacy of ecabet sodium enema on steroid-resistant or steroid-dependent ulcerative colitis.	米国DDW	シカゴ	2005年5月15~19日

飯塚政弘 堀江泰夫 金野志穂 佐々木健治 佐藤亜紀子 進藤健一 伊藤博彰 渡辺純夫	炎症性腸疾患の再燃因子・再燃予防因子の検討	1回日本消化管学会総会	名古屋	36919
飯塚政弘 佐藤亜紀子 渡辺純夫	ワークショップ(1) 消化器疾患における腸管内細菌叢攪乱とBiotherapyの意義: 細菌、ウイルス抗原の腸上皮細胞障害および創傷治癒におよぼす影響	第91回日本消化器病学会総会	東京	平成17年4月14~16日
進藤健一 飯塚政弘 佐々木健治 金野志穂 佐藤亜紀子 堀江泰夫 渡辺純夫	小腸上皮細胞創傷治癒におけるsucralfateの効果	第91回日本消化器病学会総会	東京	平成17年4月14~17日
飯塚政弘 山本雄造 渡辺純夫	シンポジウム(4) 炎症性病変と発癌。食道・胃・大腸・胆膵での現況とその対策。教室における潰瘍性大腸炎合併大腸癌の現況と対策	第69回日本消化器内視鏡学会総会	東京	平成17年5月26~28日
飯塚政弘 佐々木健治 渡辺純夫	ワークショップ32: 小腸粘膜防御と上皮修復機構; Morphogenic protein epimorphinの小腸上皮細胞修復に及ぼす影響	第47回日本消化器病学会大会	神戸	平成17年10月5~8日
伊藤博彰 飯塚政弘 山田育弘 石井元 道免孝洋 進藤健一 堀江泰夫 渡辺純夫	メトロニダゾールが著効した強皮症による偽性腸閉塞症の1例	第47回日本消化器病学会大会	神戸	平成17年10月5~9日
進藤健一 飯塚政弘 相良志穂 伊藤博彰 堀江泰夫 渡辺純夫	当科の潰瘍性大腸炎長期経過例に対するcancer surveillanceの効果	第47回日本消化器病学会大会	神戸	平成17年10月5~10日
進藤健一 飯塚政弘 相良志穂 伊藤博彰 堀江泰夫 渡辺純夫	小腸上皮細胞創傷治癒におけるエレンタールの効果	第2回日本消化管学会総会	東京	37297
飯合恒夫 谷達夫 岡本春彦 島山勝義	一時的回腸瘻閉鎖術における癒着防止剤の有用性の検討	第105回日本外科学会学術集会	名古屋	2005年5月11~13日
高橋聡 飯合恒夫 谷達夫 岡本春彦 川村俊彦 安保徹 島山勝義	DSS誘導腸炎モデルにおける腸管リンパ球の解析 特に胸腺外分化T細胞のパイエル板への移入について	第105回日本外科学会学術集会	名古屋	2005年5月11~13日
Casadesus D 谷達夫 飯合恒夫 岡本春彦 島山勝義	ヒトサイトメガロウイルスは潰瘍性大腸炎に対する回腸囊肛門吻合後の回腸囊炎において重要な役割を果たしている可能性がある	第105回日本外科学会学術集会	名古屋	2005年5月11~13日

野上 仁 小山 諭 谷 達夫 飯合恒夫 岡本春彦 畠山勝義	ラット大腸全摘モデルにおける腸管のadaptationとAQP8の発現	第105回日本外科学会 学術集会	名古屋	2005年5月11～13日
飯合恒夫	高齢者潰瘍性大腸炎に対する治療と問題点－外科の立場から	第24回IBD Club Jr. 研究会	東京	37059
飯合恒夫 亀山仁史 岩谷 昭 谷 達夫 岡本春彦 畠山勝義	回腸囊肛門吻合時に腸間膜延長のための血管切離を規定する因子	第60回日本消化器外科学会定期学術総会	東京	2005年7月20～22日
亀山仁史 飯合恒夫 谷 達夫 岡本春彦 畠山勝義	潰瘍性大腸炎に対する血球除去療法の周術期への影響	第60回日本消化器外科学会定期学術総会	東京	2005年7月20～23日
飯合恒夫 岩谷 昭 須田武保 畠山勝義	Long and short term complications after ileal pouch anal anastomosis for ulcerative colitis	第3回炎症性腸疾患フォーラム	東京	2005年7月29日
飯合恒夫 谷 達夫 畠山勝義	消化器手術の術前・術後栄養管理	DDW-JAPAN 2005	神戸	2005年10月5～8日
谷 達夫 飯合恒夫 岡本春彦 松澤岳晃 清水大喜 小林康雄 野上 仁 川原聖佳子 岩谷 昭 丸山 聡 畠山勝義	潰瘍性大腸炎術後の回腸囊炎の診断における問題点	第60回日本大腸肛門病学会総会	東京	2005年10月28～29日
野上 仁 飯合恒夫 谷 達夫 岡本春彦 畠山勝義	結腸全摘後残存直腸から大量出血をきたした潰瘍性大腸炎の2例	第60回日本大腸肛門病学会総会	東京	2005年10月28～30日
清水大喜 飯合恒夫 畠山 悟 桑原明史 谷 達夫 岡本春彦 畠山勝義	潰瘍性大腸炎に合併した若年性大腸癌の2例	第60回日本大腸肛門病学会総会	東京	2005年10月28～31日
飯合恒夫 岩谷 昭 谷 達夫 岡本春彦 畠山勝義	潰瘍性大腸炎に対する回腸囊肛門吻合術後回腸囊炎治療の検討	第67回日本臨床外科学会総会	東京	2005年11月9～11日
鮫島伸一 宮戸秀世 金古康 澤田俊夫	潰瘍性大腸炎に対するHALSを併用した一期的大腸全摘回腸囊肛門管吻合術 (IACA)	第60回日本消化器外科学会総会	東京	2005年7月5日
茂木健太 鮫島伸一 澤田俊夫	プロピオン酸ベクロメサゾン (BDP) 注射療法の成績 (パネルディスカッション2. 炎症性腸疾患の治療法の選択とQOL)	第47回日本消化器病学会大会	神戸	2005年10月5日

武智泰彦 鮫島伸一 金古康 平山 功 亀井孝雄 澤田俊夫	直腸癌に合併したトリクロロエチレン 暴露が原因と考えられる腸管気腫性囊 胞症の1例	第288回日本消化器病 学会関東支部会	東京	2006年2月4日
番場嘉子 板橋道朗 亀岡信悟	在宅中心静脈栄養（HPN）を必要とする クローン病症例の検討	第60回日本大腸肛門病 学会総会	東京	2005年10月29日
板橋道朗 廣澤知一郎 小川真平 亀岡信悟	HALSを用いた潰瘍性大腸炎の手術（ビ デオシンポ）	第30回日本外科系連合 学会総会	東京	2005年6月24日
板橋道朗 廣澤知一郎 小川真平 亀岡信悟	laparoscopic surgery for ulcerative colitis.	IBD外科フォーラム	東京	2005年7月29日
板橋道朗	クローン病の肛門病変の治療	日本外科学会生涯教育 セミナー	東京	2006年2月4日
工藤進英	早期大腸癌の内視鏡的診断	第一回全国大腸鏡及大 腸疾病病研討会	上海	2005年9月2日
工藤進英	大腸癌の早期診断と内視鏡的治療の実 際	第91回日本消化器病学 会総会ポストグラデュ エイトコース講演	東京	2005年4月16日
工藤進英	腸疾患に対する新しい画像診断アプ ローチ	第91回日本消化器病学 会総会ランチョンセミ ナー	東京	2005年4月16日
工藤進英	早期大腸癌の概念の確立と内視鏡・腹 腔鏡治療	第105回日本外科学会 定期学術集会シンポジ ウム11	名古屋	2005年5月11日
工藤進英	大腸腫瘍性病変における腺口構造の診 断学的意義の解明に関する研究	平成17年度がん研究助 成金による研究中間発 表会	東京	2006年1月11日
鎮 西亮 工藤進英 他	拡大内視鏡観察によるcolitic cancer 診断の可能性について	第69回日本消化器内視 鏡学会総会	東京	2006年5月26日
大塚和朗 工藤進英 他	炎症性腸疾患における内視鏡検査 診 断・治療戦略上の重要所見 拡大内視 鏡観察によるcolitic cancer診断の可 能性	第80回日本消化器内視 鏡学会関東地方会	東京	2006年6月3日
大塚和朗 工藤進英 他	Dysplasia/colitic cancerの肉眼型と pit patternの特徴	第81回日本消化器内視 鏡学会関東地方会	東京	2006年11月26日
K Futami	Strictureplasty for Crohn's disease in Japan.	International Symposium on Recent Advances in Inflamnaty Bowel Disease, Tokyo 2006	Tokyo	2006. 2. 18
二見喜太郎 東 大二郎 河原一雅 成富一哉 平野憲二 田村智章 富安孝成 有馬純孝	クローン病に対するスタンダード外科 治療とは	第60回日本大腸肛門病 学会総会	東京	2005. 10. 28-29
田村智章 二見喜太郎 河原一雅 成富一哉 平野憲二 東 大二郎 富安孝成 有馬純孝	クローン病における腸間膜リンパ節の 細菌学的検討	第60回日本大腸肛門病 学会総会	東京	2005. 10. 28-29

二見喜太郎 東 大二郎 河原一雅 紙谷孝則 関 克典 永川祐二 平野憲二 田村智章 有馬純孝	Crohn病外科治療における問題点	第60回日本消化器外科学会定期学術総会	東京	2005. 7. 20-22
東 大二郎 二見喜太郎 成富一哉 富安孝成 有馬純孝	クローン病における尿路生殖器瘻孔の外科治療	第60回日本消化器外科学会定期学術総会	東京	2005. 7. 20-22
平野憲二 二見喜太郎 河原一雅 東 大二郎 紙谷孝則 関 克典 永川祐二 成富一哉 田村智章 石橋由紀子 有馬純孝	尿路感染を契機に診断された高齢者クローン病の1例	第67回日本臨床外科学会総会	東京	2005. 11. 9-11
成富一哉 東 大二郎 二見喜太郎 有馬純孝	病悩期30年で肛門管癌を合併したクローン病の1例	第42回九州外科学会	熊本	2005. 5. 27-28
東 大二郎 二見喜太郎 河原一雅 紙谷孝則 関 克典 成富一哉 永川祐二 高山成吉 田中千晶 平野憲二 太田敦子 田村智章 三上隆一 有馬純孝	潰瘍性大腸炎に合併した大腸悪性腫瘍の検討	第85回日本消化器病学会九州支部例会	宮崎	2005. 6. 3-4
押谷伸英 渡辺憲治 中村志郎	Innata immunityの破綻と特発性炎症性腸疾患	第91回日本消化器病学会総会	東京	2005年 4月
Oshitani N Watanabe K Nakamura S Higuchi K Arakawa T	The safety and efficacy of granulocyte and monocyte absorption apheresis (GCAP), and leukocytapheresis (LCAP) in patients with refractory ulcerative colitis (UC).	FALK Symposium 147	Birmingham	2005年 5月
Oshitani N Jinno Y Watanabe K Watanabe T Tominaga K Fujiwara Y Nakamura S Higuchi K Arakawa T Okada T	Significance of mast cells in submucosa and muscularis propria of patients with Crohn's disease detected by a novel anti-mast cell surface molecule antibody.	Digestive Disease Week and the 106th Annual Meeting of American Gastroenterological Association	Chicago	2005年 5月



学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
矢島知治 船越信介 日比紀文	IBD患者における6-MP/AZA代謝についての解析	第92回日本消化器病学会総会	福岡	2006. 4. 20
Hisamatsu T Inoue N and Hibi T	Psychological Factors in Flare up of Ulcerative Colitis	第92回日本消化器病学会総会国際シンポジウム	福岡	2006. 4. 21
桜庭 篤 岩男 泰 日比紀文	疾患マーカーとしてのCrohn病上部消化管病変	第71回日本消化器内視鏡学会総会	東京	2006. 5. 14
志賀洋史 船越信介 高山哲朗 芹澤 宏 渡辺憲明 常松 令 金子文彦 熊谷直樹 土本寛二 首村智久 森永正二郎 岩男 泰 日比紀文	大腸全摘術後回腸囊炎・多発性関節炎に白血球除去療法および6MPが奏効した潰瘍性大腸炎の一例	第82回日本消化器内視鏡学会関東地方会	東京	2006. 6. 16
芳沢茂雄 井上 詠 松岡克義 高石官均 岡本 晋 久松理一 緒方晴彦 岩男 泰 藤田知信 河上 裕 向井万起男 日比紀文	潰瘍性大腸炎に合併する大腸癌の早期発見における抗P53抗体測定の有用性の検討	第65回大腸癌研究会	青森	2006. 7. 7
新井久美子 久松理一 鎌田信彦 岡本 晋 梅澤一夫 日比紀文	腸炎疾患モデル動物を用いたNF-κB阻害剤・DHME-Qの作用解析	第27回日本炎症・再生医学会-炎症学と再生医学の基礎から臨床へ-	東京	2006. 7. 11
日比紀文 中澤 敦 高石官均 鎌田信彦 久松理一	食事と炎症性腸疾患-腸内細菌と腸管免疫のかかわり-腸内細菌の構成・分布の以上と腸管マクロファージの分化異常	第28回日本臨床栄養学会総会 第27回日本臨床栄養協会総会第4回大連合大会	東京	2006. 9. 1
市川仁志 久松理一 日比紀文	当科においてシクロスポリン持続静注療法を施行した潰瘍性大腸炎症例の中長期予後	第61回日本大腸肛門病学会総会	青森	2006. 9. 29
中澤 敦 高石官均 鎌田信彦 桜庭 篤 矢島知治 久松理一 岡本 晋 緒方晴彦 岩男 泰 日比紀文	3. -腸内細菌と腸管免疫のかかわり-炎症性腸疾患患者における腸内細菌の構成と糞便中有機酸の検討	第9回日本臨床腸内微生物学会学術集会	東京	2006. 9. 9
日比紀文	炎症性腸疾患に対するTNF阻害薬の有効性と安全性	第34回日本臨床免疫学会	神奈川	2006. 10. 3

日比紀文	炎症性腸疾患診療の進歩と今後の展望	第48回日本消化器病学会	札幌	2006. 10. 12
井上 詠 松井敏幸 日比紀文	遠位型潰瘍性大腸炎に対するレバミピド注腸療法の有用性の検討	第48回日本消化器病学会	札幌	2006. 10. 13
市川仁志 久松理一 日比紀文	ステロイド抵抗性難治性潰瘍性大腸炎の治療方針における内視鏡スコアの有用性—従来の内視鏡重症度分類と比較	第48回日本消化器病学会	札幌	2006. 10. 13
久松理一 安藤綾俊 日比紀文	L-Histidineによるマウス実験腸炎抑制効果の作用機序解析	第48回日本消化器病学会	札幌	2006. 10. 14
日比紀文	クローン病とその分子病態	第48回日本消化器病学会	札幌	2006. 10. 11
桜庭 篤 井上 詠 日比紀文	当院におけるCrohn病に対するレミケードの治療成績	第48回日本消化器病学会	札幌	2006. 10. 12
Chinen H Kamada N and Hibi T	In situ natural killer cell differentiation in human adult intestine from lamina propria c-kit immune precursor cells.	第36回日本免疫学会総会・学術集会記録	大阪	2006. 10. 13
Kamada N Hisamatsu T Chinen H Inoue N and Hibi T	Intestinal macrophages in human Crohn's disease altered their phenotypes and produce IL-23 in response to the enteric bacteria.	第36回日本免疫学会総会・学術集会記録	大阪	2006. 12. 13
Ichikawa H Okamoto S Chinen H and Hibi T	Anti-inflammatory effect of OPC-6535, a novel PDE4 inhibitor, on inflammatory bowel diseases.	第36回日本免疫学会総会・学術集会記録	大阪	2006. 12. 13
長沼 誠 桜庭 篤 日比紀文 岩男 泰 緒方晴彦	内視鏡所見からみた白血球除去両方治療効果の予測因子の検討	第83回日本消化器内視鏡学会関東地方会	東京	2006. 12. 8
Inoue N Yoshizawa S Matsuoka K Takaishi H Ogata H Iwao Y Mukai M Fujita T Kawakami Y Hibi T	Serum P53 Antibodies (ABS) in Patients with Ulcerative Colitis (UC) Are Associated with the Development of Colorectal Cancer and Screening of P53 ABS By ELISA Is Useful in Cancer Surveillance Program for UC Patients.	Digestive Disease Week 2006	Los Angeles	2006. 5. 21~25
Nakazawa A Takada T Matsui T Kado S Asahara T Nomoto K Tanaka R Sakuraba A Yajima T Inoue N Ogata H Iwao Y Takaishi H Hibi T	The Constitution and Distribution of Intestinal Bacterial Flora in Patients with Inflammatory Bowel Disease: Genus Or Species Specific Analysis Based On 16s rRNA Gene Sequences of Intestinal Bacterial Flora in Human Feces and Colonic.	Digestive Disease Week 2006	Los Angeles	2006. 5. 21~25

Sakuraba A Sato T Iwakami Y Takada Y Inoue N Takaishi H Ogata H Iwao Y Hibi T	An Open-Labeled Trial of Granulocyte and Monocyte Adsorption Apheresis for Pouchitis.	Digestive Disease Week 2006	Los Angeles	2006. 5. 21~25
Kamada N Hisamatsu T Okamoto S Akagawa KS and Hibi T	Tabnormally Differentiated Subsets of Intestinal Macrophage Induce IL-12 Hyperproduction in Response to Bacteria. -Etiology of Th1 Dominant Colitis in IL-10 Deficient Mice-.	Digestive Disease Week 2006	Los Angeles	2006. 5. 21~25
Hisamatsu T Arai K Kamada N Chinen H Okamoto S Umezawa K and Hibi T	The Effect of Novel NF-kb Inhibitor, Dehydroxymethyllepoxyquinomichin in DSS Colitis Model Mice.	Digestive Disease Week 2006	Los Angeles	2006. 5. 21~25
Kobayashi T Okamoto S Iwakami Y Nakazawa A Hisamatsu T Imai T and Hibi T	Fractalkine and Its Receptor CX3CR1 Are Upregulated in Inflammatory Bowel Disease.	Digestive Disease Week 2006	Los Angeles	2006. 5. 21~25
石黒 陽 山形和史 棟方昭博	潰瘍性大腸炎難治例の維持療法—当科における6MPの治療成績	第48回日本消化器病学会大会	札幌	2006年10月12日
藤田 均 石黒 陽 平賀寛人 櫻庭裕丈 島谷孝司 山口佐都子 川口章吾 佐藤裕紀 山形和史 棟方昭博	潰瘍性大腸炎腸管局所におけるThrombospondin-1の発現	第49回日本消化器病学会大会	札幌	2006年10月12日
石黒 陽 平賀寛人 櫻庭裕丈 島谷孝司 山口佐都子 藤田 均 川口章吾 佐藤裕紀 山形和史 Atusushi M 棟方昭博	CINC-1のregulatory cytokine 誘導とTNBS腸炎に対する防御的效果	第43回消化器免疫学会総会	弘前	2006年8月4日
藤田 均 石黒 陽 平賀寛人 櫻庭裕丈 島谷孝司 山口佐都子 川口章吾 佐藤裕紀 山形和史 棟方昭博	潰瘍性大腸炎患者における熱ショック蛋白70Kdに抗炎症効果と難治性病態への関与	第43回消化器免疫学会総会	弘前	2006年8月4日

藤田 均 石黒 陽 平賀寛人 櫻庭裕丈 島谷孝司 山口佐都子 川口章吾 佐藤裕紀 山形和史 棟方昭博	潰瘍性大腸炎におけるMDR-1の発現に関する検討	第5回GIFM	東京	2006年7月22日
辻 剛俊 吉村徹郎 三上達也 佐々木賀広 福田眞作 棟方昭博	Crohn病の長期成績と予後	第61回日本大腸肛門病学会総会	弘前	2006. 9. 30
Watanabe K Oshitani N Kamata N Yamagami H Higuchi K Matsumoto T and Arakawa T	Efficacy and Endoscopic Prediction of Clinical Response to Leukocytapheresis in Patients with Corticosteroid Refractory or Dependent Ulcerative Colitis: Results with Two Different Leukocytapheresis Systems.	107th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association Institute (DDW2006)	Los Angels Convension Center	2006年5月21日
Hida N Watanabe K Hori K Ikeuchi H Ohda Y and Matsumoto T	Pit Pattern Diagnosis in Ulcerative Colitis Associated Neoplastic Lesions.	107th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association Institute (DDW2006)	Los Angels Convension Center	2006年5月23日
Tomita T Hayashi C Kim Y Nakajima K Yamamoto N Sakagami T Matsumoto T and Miwa H	Acid Induced Symptom Generation (Heartburn) May Not Be Mediated By Esophageal Muscle Contraction.	107th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association Institute (DDW2006)	Los Angels Convension Center	2006年5月24日
Fukuda Y Takazoe M Sugita A Kosaka T Tomita T Hori K Fukunaga K Miwa H Matsumoto T Koizuka H Sakagami T and Shimoyama T	The Treatment with An Oral Spherical Adsorptive Carbon (AST-120) Improves Anal Fistula, PDAI and CDAI Scores - A Randomized Double-Blind Placebo-Controlled Trial.	107th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association Institute (DDW2006)	Los Angels Convension Center	2006年5月24日
Yokoyama Y Fukunaga K Fukuda Y Ohnishi K Kusaka T Kosaka T Hida N Ohda Y Miwa H and Matsumoto T	Role of CD25High+ and CD28-Difficient CD4+ T-Cells in Active Ulcerative Colitis Patients.	12th International Conference on Ulcer Research (ICUR) & GI Satellite of IUPHAR 2006	Hotel New Ohtani Osaka	2006年7月8日

Fukunaga K Jinno Y Ohda Y Yokoyama Y Ohnishi K Kusaka T Kosaka T Hida N Miwa H and <u>Matsumoto T</u>	Endoscopic Colorectal Mucosal Blood Flow Evaluation for Ulcerative Colitis Patients.	12th International Conference on Ulcer Research (ICUR) & GI Satellite of IUPHAR 2006	Hotel New Ohtani Osaka	2006年7月8日
Kosaka T	Upper GI Lesion in Crohn.	12th International Conference on Ulcer Research (ICUR) & GI Satellite of IUPHAR 2006	Hotel New Ohtani Osaka	2006年7月8日
Hida N Watanabe K Hori K Ikeuchi H and <u>Matsumoto T</u>	Pit Pattern Diagnosis in Ulcerative Colitis Associated Neoplastic Lesions.	12th International Conference on Ulcer Research (ICUR) & GI Satellite of IUPHAR 2006	Hotel New Ohtani Osaka	2006年7月8日
Takagawa T Tamura K Takeda N Ohda Y Fukunaga K Hida N Ohnishi K Hori K Kosaka T Fukuda Y Ikeuchi H Yamamura T Miwa H and <u>Matsumoto T</u>	Association between IL-18 Gene Promoter Polymorphisms and Inflammatory Bowel Disease in a Japanese Population.	12th International Conference on Ulcer Research (ICUR) & GI Satellite of IUPHAR 2006	Hotel New Ohtani Osaka	2006年7月9日
Jinno T <u>Matsumoto T</u> Oshitani N Arakawa T	The Presence of Proliferative Plasma-Lineage Cells in Appendix of Ulcerative Colitis.	12th International Conference on Ulcer Research (ICUR) & GI Satellite of IUPHAR 2006	Hotel New Ohtani Osaka	2006年7月9日
Ohda Y Hori K Tomita T Hida N Fukunaga K Jinno Y Kosaka T Fukuda Y Miwa H <u>Matsumoto T</u>	HGF Treatment Reduces Mucosal Inflammation and Apoptosis on Rat TNBS and DSS Models.	12th International Conference on Ulcer Research (ICUR) & GI Satellite of IUPHAR 2006	Hotel New Ohtani Osaka	2006年7月9日
Kusaka T Onishi K Yokoyama Y Fukunaga K Sawada K <u>Matsumoto T</u>	About the Transition of Cytapheresis Our Department.	First Japan-Korea IBD Symposium	Grand Hilton Seoul Hotel	2006年9月23日

Matsumoto T Fujiyama Y Okawa K Ito H Torii A Yoshikawa S Nakaoka R Okuyama Y Watanabe K Nishishita M	Multicenter Prospective Open Label Study of Leukocytapheresis in Patients with Intractable Moderate to Severe Ulcerative Colitis.	14th Uited European Gastroenterology Week (UEGW2006)	International Congress Centrum ICC Berlin	2006年10月23日
Fukunaga K Yokoyama Y Tozawa K Kamikoduru K Fukuda Y Ohnisi K Kusaka T Kosaka T Hida N Ohda Y Miwa H Matsumoto T	Demonstration of Low Regulatory CD25High+CD4 and High Pro-Inflammatory CD28-CD4+ T-cell Subsets in Patients with Ulcerative Colitis:Modified by Selective Granulocyte and Monocyte Adsorption Apheresis.	14th Uited European Gastroenterology Week (UEGW2006)	International Congress Centrum ICC Berlin	2006年10月23日
Tozawa K Fukunaga K Jinno Y Yokoyama Y Kamikoduru K Ohda Y Hida N Miwa H Fukuda Y Matsumoto T	Endoscopic Colorectal Mucosal Blood Flow Evaluation for Ulcerative Colitis Patients.	14th Uited European Gastroenterology Week (UEGW2006)	International Congress Centrum ICC Berlin	2006年10月23日
Kamikoduru K Fukunaga K Yokoyama Y Tozawa K Ohda Y Hida N Fukuda Y Miwa H Matsumoto T	Leukocyte-modulation durring Leukocytapheresis for Ulcerative Colitis Patients as a Possible Predictive Marker in its Clinical Response.	14th Uited European Gastroenterology Week (UEGW2006)	International Congress Centrum ICC Berlin	2006年10月23日
Ohda Y Hori K Hida N Tomita T Fukunaga K Jinno Y Kosaka T Fukuda Y Miwa H Matsumoto T	Recombinant Human HGF Reduced Mucosal Inflammation and Apoptosis in Rat IBD Models.	14th Uited European Gastroenterology Week (UEGW2006)	International Congress Centrum ICC Berlin	2006年10月23日
Watanabe K Machida H Oshitani N Higuchi K Matsumoto T Arakawa T	The Efficacy of Surveillance Colonoscopy for Ulcerative Colitis Associated Cancer or Dysplasia by Using NBA (Narrow Band Imaging).	14th Uited European Gastroenterology Week (UEGW2006)	International Congress Centrum ICC Berlin	2006年10月24日

樋田信幸 堀 和敏 應田義雄 福永 健 大西国夫 日下 剛 小坂 正 福田能啓 松本譽之	全大腸炎型潰瘍性大腸炎の長期経過例 に合併した虫垂癌の1例	第92回日本消化器病学 会総会	西日本総合 展示場	2006年4月20日
上小鶴孝二 加藤恭一 戸澤勝之 吉田幸治 富田寿彦 小坂 正 三輪洋人 福田能啓 松本譽之	クローン病の下血に対する投与経験	第92回日本消化器病学 会総会	西日本総合 展示場	2006年4月20日
松本譽之	Biologics therapyは、クローン病の病 態と治療を変えたのか？（ランチョン セミナー）	第92回日本消化器病学 会総会	北九州国際 会議場	2006年4月20日
戸澤勝之 山本憲康 神野良男 小林健彦 三輪洋人 松本譽之	2度DICが改善した全身骨転移伴う胃癌 の1症例	第92回日本消化器病学 会総会	西日本総合 展示場	2006年4月21日
吉田幸治 堀 和敏 樋田信幸 高川哲也 田村和朗 松本譽之	SMAD4遺伝子の変異を伴う Juvenile polyposis of the stomach (以下JPS) の1例	第92回日本消化器病学 会総会	西日本総合 展示場	2006年4月21日
小坂 正 富田寿彦 松本譽之 上小鶴孝二 戸澤勝之 吉田幸治 福田能啓 辻川知之 渡辺憲治 伊藤裕章 松本譽之	クローン病のInfliximab投与におけ るクリニカルパス導入の意義	第92回日本消化器病学 会総会	西日本総合 展示場	2006年4月22日
松本譽之 神野良男 中村志郎 松本譽之	潰瘍性大腸炎の病態・診断・治療-基 本的事項を中心に-	日本大腸肛門病学会第 15回教育セミナー	都市セン ターホテル	2006年5月28日
松本譽之 神野良男 中村志郎	クローン病におけるリンパを介した免 疫応答の意義（シンポジウム）	第30回日本リンパ学会 総会	東邦大学医 療センター 大森病院	2006年6月2日
松本譽之	炎症性腸疾患の病態と治療におけるサ イトカイン制御の意義（ランチョンセ ミナー）	第71回日本インター フェロン・サイトカイン 学会学術集会	兵庫医科大 学平成記念 会館	2006年7月7日
福永 健 横山陽子 戸澤勝之 大西国夫 日下 剛 小坂 正 松本譽之	活動期クローン病患者に対する選択的 血小板除去療法 (Selective Platelet Removal Therapy, SPRT):Early Phase- II Study)	第26回日本アフェレシ ス学会学術大会	大津ホテル	2006年7月28日
横山陽子 福永 健 大西国夫 日下 剛 長瀬和子 松本譽之	潰瘍性大腸炎に対する免疫関連細胞の 関わりとGCAPの免疫学作用について	第26回日本アフェレシ ス学会学術大会	大津ホテル	2006年7月28日

長瀬和子 大西国夫 福永 健 日下 剛 横山陽子 戸澤勝之 松本譽之	当科での潰瘍性大腸炎患者に対する血球成分除去療法における有害事象の発現とその対策について	第26回日本アフレルシス学会学術大会	大津ホテル	2006年7月28日
戸澤勝之 横山陽子 福永 健 大西国夫 日下 剛 松本譽之	初期集中的顆粒球吸着療法が著効した巨大結腸症を合併した重症潰瘍性大腸炎の一例	第26回日本アフレルシス学会学術大会	大津ホテル	2006年7月28日
福永 健	末梢血免疫調節性T細胞による潰瘍性大腸炎患者の治療効果予測	第43回日本消化器免疫学会総会	ホテル ニュー キャッスル	2006年8月4日
上小鶴幸二 戸澤勝之 松本譽之	当院におけるInfliximabの投与の効果、合併症と長期予防	第24回日本大腸検査学会総会	大阪国際会議場	2006年9月2日
樋田信幸 堀 和敏 松本譽之	潰瘍性大腸炎合併腫瘍性病変におけるpit pattern診断の有効性（シンポジウム）	第24回日本大腸検査学会総会	大阪国際会議場	2006年9月2日
芝 一弘 松本譽之 金 鏞民 堀 和敏 富田寿彦 三輪洋人	大腸癌と鑑別が困難であった虚血性大腸炎の二例	第77回日本消化器内視鏡学会近畿地方会	京都テルサ	2006年9月23日
戸澤勝之 上小鶴幸二 應田義雄 福永 健 大西国夫 福田能啓 松本譽之	当科におけるクローン病入院治療後の長期予後	第61回日本大腸肛門病学会総会	弘前商工会議所	2006年9月29日
中埜廣樹 池内浩基 内野 基 中村光宏 野田雅史 柳 秀憲 柳生利彦 外賀 真 橋本明彦 大嶋 勉 嵯峨山健 松本譽之 山村武平	潰瘍性大腸炎手術症例の長期予後	第61回日本大腸肛門病学会総会	ホテル ニュー キャッスル	2006年9月29日
内野 基 池内浩基 大嶋 勉 中村光宏 嵯峨山 健 橋本明彦 外賀 真 中埜廣樹 柳生利彦 野田雅史 柳 秀憲 西上隆之 松本譽之 山村武平	多彩な病理形態を示したColotic Cancerの一例	第61回日本大腸肛門病学会総会	ホテル ニュー キャッスル	2006年9月29日



福永 健 大西国夫 應田義雄 戸澤勝之 上小鶴孝二 日下 剛 松本譽之	末梢血免疫制御性T細胞に着目した白血球系細胞除去療法の早期治療効果予測は急性期潰瘍性大腸炎患者のQOL向上に繋がるか？（シンポジウム）	第61回日本大腸肛門病学会総会	弘前文化センター	2006年9月29日
池内浩基 中埜廣樹 内野 基 中村光宏 野田雅史 柳 秀憲 柳生利彦 橋本明彦 外賀 真 大嶋 勉 松本譽之 山村武平	潰瘍性大腸炎に対する、小開腹法による1期的J型回腸囊肛門吻合術の術後管理の工夫と予後（シンポジウム）	第61回日本大腸肛門病学会総会	弘前文化センター	2006年9月29日
福永 健 横山陽子 戸澤勝之 應田義雄 樋田信幸 大西国夫 日下 剛 福田能啓 三輪洋人 松本譽之	潰瘍性大腸炎患者における末梢血CD25High+CD4+およびCD28-CD4+T細胞発現：顆粒球吸着療法の即時的修飾効果	第48回日本消化器病学会大会	道立総合体育センター	2006年10月12日
神野良男 坂上 隆 松本譽之	ダブルバルーン法内視鏡からみたクローン病の病勢や治療評価について（シンポジウム）	第48回日本消化器病学会大会	札幌コンベンションセンター	2006年10月13日
富田寿彦 松本譽之 三輪洋人	ダブルバルーン法小腸内視鏡から見た小腸の狭窄病変	第72回日本消化器内視鏡学会総会	道立総合体育センター	2006年10月14日
樋田信幸 堀 和敏 松本譽之	潰瘍性大腸炎合併腫瘍性病変の実体顕微鏡によるPit pattern診断と病理組織所見の解析	第72回日本消化器内視鏡学会総会	道立総合体育センター	2006年10月14日
松本譽之	炎症性腸疾患（IBD）診療における最近のトピックス（ランチョンセミナー）	第103回日本消化器病学会北陸支部例会	石川県地場産業振興センター	2006年11月5日
池内浩基 中埜廣樹 内野 基 中村光宏 山村武平 堀 和敏 三輪洋人 樋田信幸 松本譽之	潰瘍性大腸炎術後の回腸囊炎および胃十二指腸病変の検討（シンポジウム）	第44回小腸研究会	ノホテル甲子園	2006年11月11日

神野良男 坂上 隆 井上 拓 横山陽子 河野友彰 吉田幸治 戸澤勝之 芝 一弘 上小鶴孝二 大西国夫 日下 剛 樋田信幸 福永 健 應田義雄 松本譽之 金 鏞民 中嶋一彦 林 千鶴子 山本憲康 大島忠之 富田寿彦 堀 和敏 三輪洋人	クロウン病の小腸病変(ダブルバルーン法内視鏡を中心として)(シンポジウム)	第44回小腸研究会	ノボテル甲子園	2006年11月11日
近藤 隆彦 富田寿彦 吉田幸治 應田義雄 福永 健 樋田信幸 小坂 正 堀 和敏 福田能啓 松本譽之 三輪洋人 中村光宏 内野 基 中埜廣樹 野田雅史 池内浩基 柳 秀憲 山村武平 松本譽之	クロウン病に合併した回腸癌の1例	第44回小腸研究会	ノボテル甲子園	2006年11月11日
長瀬和子	炎症性腸疾患の病態からみた治療のupdate to date	日本消化器病学会東海支部第16回教育講演会	名古屋国際会議場	2006年11月25日
河野友彰 應田義雄 井上 拓 戸澤勝之 上小鶴孝二 樋田信幸 福永 健 堀 和敏 内野 基 中埜廣樹 池内浩基 中嶋一彦 竹末芳生 山村武平 三輪洋人 松本譽之 福田勝英	Cytapheresisにおける有害事象	第25回日本アフェレンス学会関西地方会技術講習会	奈良県新公会堂	2006年12月16日
重篤なMRSA肺炎を合併したが救命しえた劇症潰瘍性大腸炎の1例	第3回日本消化管学会総会学術集会	東京プリンスホテルパークタワー	2007年2月1日	

池内浩基 中埜廣樹 内野 基 中村光宏 野田雅史 柳 秀憲 松本譽之 竹末芳生 山村武平	潰瘍性大腸炎における超高齢者（70歳以上）手術症例の検討	第3回日本消化管学会 総会学術集会	東京プリンスホテル パークタワー	2007年2月1日
井上 拓 福永 健 河野友彰 上小鶴孝二 戸澤勝之 横山陽子 吉田幸治 日下 剛 應田義雄 樋田信幸 大西国夫 松本譽之 三輪洋人	広範囲の皮膚壊死を合併した潰瘍性大腸炎の1例	第86回日本消化器病学会 近畿支部例会	京都テルサ	2007年2月17日
Sato Y Takahashi S Kinouchi Y Nomura E Negoro K Takagi S Aihara H Shimosegawa T	Deletion and G:C to A:T transition are the specific mutation patterns in the inflamed colon of the IL-10 knockout mouse.	47. 107th annual meeting of American Gastroenterological Association	Los Angeles	20-25/May, 2006
Yokoyama H Takagi S Kuriyama S Takahashi S Takahashi H Iwabuchi M Takahashi S Kinouchi Y Tsuji I Shimosegawa T	Efficacy of weekend 5-ASA (mesalazine) enema as a maintenance therapy in patients with ulcerative colitis: randomized controlled study.	47. 107th annual meeting of American Gastroenterological Association	Los Angeles	20-25/May, 2006
Takagi S Utsunomiya K Kuriyama S Yokoyama H Takahashi S Iwabuchi M Takahashi H Kinouchi Y Hiwatashi N Funayama Y Sasaki I Tsuji I Shimosegawa T	Efficacy of half elemental diet as a maintenance therapy for Crohn's disease: Crohn's disease half elemental diet study in Sendai: A randomized controlled study.	47. 107th annual meeting of American Gastroenterological Association	Los Angeles	20-25/May, 2006
Kakuta Y Kinouchi Y Negoro K Matsuura M Abe H Imai G Mochida A Tosa M Nomura E Takagi S Takahashi S Shimosegawa T	Case-control association study of TNFSF15 polymorphisms in the Japanese patients with Crohn's disease and ulcerative colitis.	47. 107th annual meeting of American Gastroenterological Association	Los Angeles	20-25/May, 2006

Nomura E Kinouchi Y Imai G Kakuta Y Abe H Tosa M Mochida A Negoro K Takagi S Hiwatashi N Takahashi S Hiwatashi N Shimosegawa T	Analysis of positional candidate gene HLA-B in Japanese patients with ulcerative colitis.	47. 107th annual meeting of American Gastroenterological Association	Los Angeles	20-25/May, 2006
Tosa M Kinouchi Y Negoro K Nomura E Kakuta Y Abe H Imai G Mochida A Takagi S Takahashi S Shimosegawa T	Candidate gene analysis of Runx1 and Padi4 in Japanese patients with inflammatory bowel disease.	47. 107th annual meeting of American Gastroenterological Association	Los Angeles	20-25/May, 2006
野村栄樹 角田洋一 木内喜孝	消化器疾患における遺伝素因と環境因子	第92回日本消化器病学会総会	小倉	平成18年4月20-22日
高木 承 宇都宮恭子 木内喜孝	クローン病の経腸成分栄養による緩解維持療法に関する無作為割付比較試験	第92回日本消化器病学会総会	小倉	平成18年4月20-22日
角田洋一 木内喜孝 根来健一 高橋成一 高木 承 下瀬川 徹	日本人クローン病とTLIA遺伝子多型との相関について	第92回日本消化器病学会総会	小倉	平成18年4月20-22日
志賀永嗣 高木 承 木内喜孝 高橋成一 下瀬川 徹	20歳未満発症の潰瘍性大腸炎の予後の検討	第92回日本消化器病学会総会	小倉	平成18年4月20-22日
横山 大 高木 承 木内喜孝 高橋成一 下瀬川 徹	潰瘍性大腸炎緩解維持療法におけるメサラジン週末注腸療法の有用性	第92回日本消化器病学会総会	小倉	平成18年4月20-22日
佐藤雄一郎 高橋成一 木内喜孝	IL-10ノックアウトマウスの炎症腸管ミューテーションスペクトラムの検討	第48回日本消化器病学会大会	札幌	平成18年10月11-13日
土佐正規 高木 承 木内喜孝	クローン病に対するinfliximab連用における副作用予防対策の有用性	第48回日本消化器病学会大会	札幌	平成18年10月11-13日
角田洋一 木内喜孝	日本人潰瘍性大腸炎とTNFSF15遺伝子多型との相関について	第48回日本消化器病学会大会	札幌	平成18年10月11-13日
持田淳弘 木内喜孝	日本人炎症性腸疾患とBTNL2遺伝子多型との相関について	第48回日本消化器病学会大会	札幌	平成18年10月11-13日
志賀永嗣 高木 承 野村栄樹 高橋成一 木内喜孝 下瀬川 徹	IBDの長期成績と予後	第61回日本大腸肛門病学会総会	弘前	平成18年9月29-30日